



東京都 多摩中央遊技場組合
「多摩稲城街頭防犯カメラ設置」事業



多摩中央遊技場組合
組合長
和田雅英さん

街頭防犯カメラ設置で 安全・安心な街づくりに貢献

連続放火犯検挙につながった防犯カメラ映像

昨年9月、東京都多摩市で起きた連続放火事件をご記憶の方も多いと思う。わずか10日ほどの間に、半径約2キロの範囲で、建築中の住宅やアパートが6棟も相次いで放火された事件である。焼けた住宅に念願のマイホームの夢を託していた人、その建築に携わっていた業者にとっては、きわめてショッキングな事件だったに違いない。

11月30日に犯人は逮捕されたが、そのニュースを聞いて、「これでやっと安心して眠ることができる」と、被害に遭った住宅の近くに住む住民がコメントしていたが、近隣住民にとっては不安な日々が続いたことと想像される。

犯人は東京都日野市に住む20代の若者だった。逮捕のきっかけとなったのは、最初の放火事件が起きる約1時間ほど前に、セルフ式のガソリンスタンドで飲料用の容器にガソリンを給油する犯人の姿が、現場周辺に設置されている防犯カメラに映っていたことだという。実は、この防犯カメラは、多摩中央遊技場組合(多摩中央遊技場防犯協会)が購入・設置費用の1700万円を拠出して設置されたものであった。

この街頭防犯カメラの設置は、これまでも多摩中央遊技場組合が社会貢献活動として取り組んできた「安全で



多摩センター駅前に設置された第1号機の防犯カメラ

安心して暮らせる街づくり」の一環であり、和田組合長が地域に呼びかけ、その趣旨に賛同した多摩中央警察署や多摩稲城防犯協会などの地域団体の協力もあって実現したものである。和田組合長は、地域団体が構成される多摩稲城・街頭防犯カメラ設置推進協議会の副会長も務めている。

犯罪抑止や捜査に貢献する防犯カメラ38台の設置

街頭防犯カメラは過去の犯罪発生状況のデータをもとに、多摩稲城・街頭防犯カメラ設置推進協議会が多摩市、稲城市内の選定した場所へ、合計38台、昨年4月末までに順次、設置された。カメラは48万画素と130万画素の2種類のドーム型カメラで、記録された映像の再生には暗証番号と専用のパソコンが必要となっており、高いセキュリティ機能が特徴である。また、記録映像は原則、警察等の犯罪捜査上必要な場合のみ活用されることになっている。

昨年1月22日には、多摩中央警察署で「街頭防犯カメラ設置お披露目式」が開催され、多摩中央署署長、和田組合長のほか、多数の協議会関係者が出席した。

このお披露目式において、和田組合長が、「多摩市と稲城市の安全で安心な街づくりの第一歩として、第1号カメラが晴れて設置されたことをうれしく思います」と挨拶して、会場に詰めかけた関係者に謝意を伝えた。また、署長からは、「街頭防犯カメラは犯罪の抑止、予防に大きな効果があり、また犯罪が発生した場合の捜査に大いに役立ちます」と、街頭防犯カメラの有用性についての解説があった。お披露目式終了後、出席者は第1号機の設置された多摩センター駅前に移動し、くす玉を割って、第1号機の設置を祝った。

昨年9月の連続放火事件において、この街頭防犯カメラが早速、効果を発揮したわけで、今後も多摩・稲城地域の犯罪抑止や犯罪捜査に大いに力を発揮していくことが期待される。



街頭防犯カメラ設置を周知する看板



街頭防犯カメラ設置お披露目式